

冬の風物詩 心も体もあたたまる食遊祭

1月22日、特産品などをふんだんに使った自慢の料理が集う『第10回かみのくに食遊祭』が町民体育館で開催され、約1000人が来場しました。

会場では、郷土芸能・龍焰太鼓の音色とともにイベントが始まり、周囲にずらりと立ち並ぶ店舗から芳ばしい香りが立ち上ると、客席はすぐに満杯となりました。

また、上ノ国中学校吹奏楽部による演奏や上ノ国中学校吹奏楽部による演奏などの様々な催しも行われたほか、投票によって会場のナンバーワン料理を決める『天河一品味くらべ総選挙』では、『フルーツポークのとりとろ和風シチュー』を出品した夷王亭が見事2連覇を達成し、2位には居酒屋美里の『じゃがもちあんかけ鍋』、3位にはささなみの『フルーツポークの白味噌ラーメン』がランクインしました。

来場者は、こうした料理に舌鼓を打ちつつ催しを楽しみ、寒い冬の一日に、心も体も温まるイベントを満喫していました。



コラソンの快挙 コンサドーレカップ準優勝

1月13日から3日間、『コンサドーレ・エスポラーダカップ全道市町村サッカーフットサル大会』が札幌ドームで開催され、本町と江差町の子ども達が所属するコラソニックが、U-12の部門にて準優勝する快挙を成し遂げました。

U-12カテゴリーには全道から74チームが参加し、コラソニックは優勝候補がひしめく予選を接戦のなか勝ち進み、決勝トーナメントに進出すると波に乗り、決勝戦まで危なげなく勝ち進む快進撃を見せました。

そして決勝戦では、素早い攻守の切替えというコラソンと同じ戦術を得意とする稚内の最北FCとの対戦となりました。

これに対してコラソンは一步も引かない戦いぶりを見せ、試合終了間際まで0-0の接戦となりましたが、ラスト5秒で決勝点を奪われ、惜しくも準優勝となりました。快挙と呼ぶに相応しい結果でしたが、子ども達の目には涙が浮かび、悔しさを滲ませつつも、次への糧として敗戦を噛み締めている様子でした。



野球少年にプロの心構え伝える

1月14日、町制施行50周年記念事業の一環として、プロ野球選手を招いた野球教室が町民体育館で開催され、ヤンチャーズや上中学生のほか、檜山管内の小中学生約70名が参加しました。

講師には、プロ野球・オリックスバファローズに所属している、北海道出身の佐竹学コーチと伏見寅威選手が招かれ、野球少年少女達にとっては、現役のプロの指導という忘れられない体験となった様子です。

会場では、スローイングやキャッチング、バッティングに対し、プロの目線から様々なアドバイスが送られ、なかにはバッティング時の姿勢が一目でわかるほど改善した子もいるなど、短い時間ながら随所に子ども達の成長が感じられる教室となりました。



極寒の日本海に向かって 飛沫舞う寒稽古

1月15日、年の初めに心身を引き締め、無病息災を祈願する上ノ国空手道少年団の寒稽古が、上ノ国八幡宮前の浜辺で行われ、幼児から大人まで約20名の団員が参加しました。

上ノ国八幡宮に集まった団員は、拝殿にて1年間の無病息災を祈ったのち、極寒と呼ぶに相応しい気温と強い風が吹くなか、浜辺まで移動して寒稽古を行いました。

浜辺に並んだ団員達の中には、園児など幼い子も多くいましたが、指導者の掛け声と共に、寒さに立ち向かうように気合いをはき出していました。

稽古を最後までやり遂げると、団員ら一人ひとりの顔には達成感が浮かび、一年の始まりに身を引き締め、新たな年に立ち向かう力強さが宿った様子でした。